

ワードには、5種類の画面表示が用意されています。

【印刷レイアウト】【閲覧モード】【Webレイアウト】【アウトライン】【下書き】

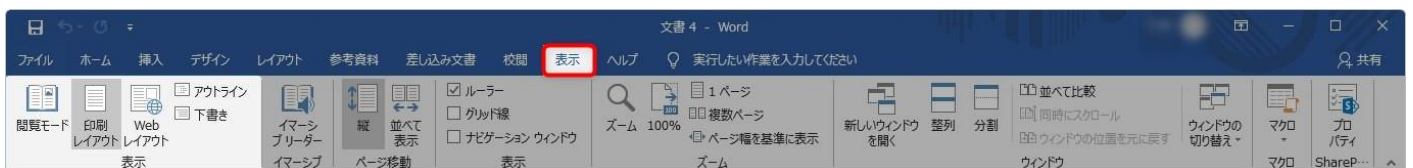


それぞれ、作業する内容に合わせて最適な画面表示が用意されているのです。  
それぞれの特徴について説明します。

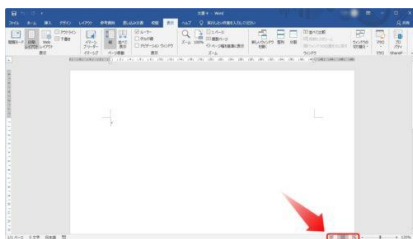
## 画面表示の切り替え

画面表示を切り替えるボタンは、

【表示】タブの左側に集まっています。



また、一部の表示モードは画面右下にショートカットで存在します。



拡大するとこんな感じ。



左から【閲覧モード】【印刷レイアウト】【Webレイアウト】です。

## 各表示モード



こちらの文書が、どのような表示になるかを例として説明していきます。

## ❖印刷レイアウト

ワードを起動したときは子の表示になっている。

通常の状態です。印刷される状態を確認しながら作業できる表示モードです。



## ❖閲覧モード

全画面表示になる。

先ほどの【印刷レイアウト】だと改行などの編集記号や、余白のマークが表示されています。

それらのマークも表示されないので、印刷したそのままの状態を確認したい場合はこの表示モードがおすすめです。（印刷プレビューと同じ）

また、画面の左上にメニューが3つ存在します。

【ツール】には、検索に関するメニューがあります。



【表示】には、表示に関するレイアウトや色合いの変更など、様々な設定

が用意



されています。

文章の編集クリックで元のがめに



また、右上の【閲覧ツールバーを自動的に非表示にする】をク

リックすると、

このメニューも非表示にして文書を大きく表示することができる。

## ❖Web レイアウト

ワードで作成した文書は、【Web ページ】として保存することで、そのまま Web に載せることができる。しかし、ホームページ (Web ページ) は HTML という言語で書かれており、**ワードの画面をそのままのレイアウトで表示することはできません。**

では、どのように表示されるのか。それを確認できるのが【Web レイアウト】表示です。

試しに、先ほどの文書を【Web レイアウト】表示にするとこのようになってしまいます。

やはり【印刷レイアウト】で作成したものを、【webレイアウト】にするとデザインがおかしくなります。



【webレイアウト】

表示ならば、Webに

載せたときに、どの

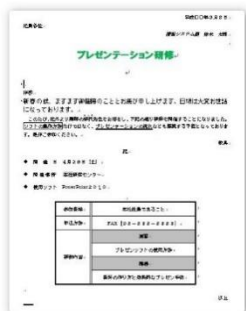
ような表示になるかを確認しながらページを作成できます。



### ❖アウトライン

こちらの表示に切り替えると、画面上に【アウトライン】タブがあらわれます。

この機能を使用すると、段落に「レベル」が設定でき、そのレベルに応じて文章の段階を設定することができます。また、下のように、画像などが省略され、文字情報のみになります。



こちらは、「大見出し」「小見出し」などが存在するような、長い論文や小説を書くときなどに便利なモードです。

文章全体の構成が見やすくなるという利点もあります。

表示 → 印刷レイアウトで元の画面に

### ❖下書き

画像などのレイアウトを極力排除し、文字に集中したいときに使用するのが下書きモードです。



画像や図形が消えました。

誤字脱字チェックで使いそうですね。

